

定例記者会見

日時 令和4年8月25日（木）

午前10時から

場所 市役所3階 大会議室

1 市長あいさつ

記者の皆様方には、日頃から越前市政の推進にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨日は、市議会の全員説明会が開催され、提出予定議案等についてご説明させていただきました。

9月補正予算は、原油・原材料価格の高騰への支援、お魚の市場が閉鎖されたことに伴いまして食の流通基盤を確保する必要がありますので、これに対応するもの、子ども医療費の無料化に向けた準備する予算、児童発達支援事業、発達障害の方々への応援する予算を計上しました。今日は、そのことを中心にご説明を申し上げます。

あと、パートナーシップ制度についても10月1日から導入する予定をしておりますので、それについてもご説明を申し上げます。

記者の皆様方には、取材等のご協力をよろしく申し上げます。

2 発表項目

- | | |
|---------------------|---------|
| 1 令和4年度9月補正予算（案）の概要 | 資料1、資料2 |
| 2 越前モノづくりフェスタ2022 | 資料3 |

【発表項目概要】

- 1 令和4年度9月補正予算（案）の概要

予算の概要についての全体の概要は、お手持ちの資料1です。今回の補正額は、6億1,096万2千円、補正後の総額は、1.7%増の371億6,624万2千円です。

主な項目について、お手元の資料2に基づいてご説明申し上げます。

まず、一つ目として、原油・原材料の高騰対策として、新たに事業者当た

り10万円を補助し、1億2千6百万円の補正を計上しています。価格高騰が転嫁できていないような企業があるので、そこを応援しようとするものです。

資料をご覧のとおり、売り上げでなく利益が減少しているものです。売り上げが上がっても利益ができない課題があるので、利益が前年同月比30%以上減少する事業者には補助し、なんとかこの状況を乗り越えていただきたいと思います。

次に二つ目ですが、市内の卸売りの会社が7月いっぱいまで廃業することになり、多くの魚屋さんとか料理屋さんが困るという話がありましたので、各方面に協力をいただくように働きかけをしていました。武生商工会議所と一緒にあって関係するすべての方に寄り添いながらサポートしていく形で準備をしてきました。福井の中央卸売場、福井中央魚市という事業者の方に働きかけをし、福井市の方にも協力要請しました。県の方にも越前市だけでなく周辺市町にも関係事業者がいるので一緒に応援してほしいと働きかけまして、今のところ、県と一緒にあって応援しようと考えています。新しい会社ができますので、その会社の初期投資として、車両、冷蔵冷凍庫、製氷機など総額600万円を補助する予定でございます。県ではこれから知事査定と続く中で、我々の方に応援をいただいて、併せて会社に応援するスキームでやっていく予定です。

次に、農業者への経営支援です。6月補正で原油・物価高騰対策として10アール当たり970円の応援をいたしました。この時に、市によっては年間分を応援するやり方もありましたが、越前市は、まず春の分を応援して、様子を見ながら次の手を打とうと考えていて、その結果9月補正で10アール当たり1,860円、合計10アール当たり2,830円、総額約6千万円の支援を行うということで、県内でもトップレベルの応援を行いたいと思います。

次に、市内の私立保育園・認定こども園に対して、給食の食材が高騰する、あるいは電気料金が上がっているということで、原油価格・物価高騰対策の一環として応援するものです。補正予算額は、711万円を計上しました。

次に、紫式部が大河ドラマに決まりまして、プロジェクトチームを作っているいろいろな事業を検討しています。2024年なので、今年・来年・再来

年と3か年かけて、何とか紫式部をきっかけに少しでも認知度を高めて来ていただき、その周辺を見ていただきたいと思っています。もちろん紫式部にゆかりのある施設もありますが、そこだけでなく、周辺の越前和紙とか越前打刃物とかまちなかの寺社とかに少しでもお客さんを誘導していきたいと思っています。そういうチャンスというか、機会として紫式部の大河ドラマをできる限り活用したいと思っています。新幹線の開業も非常にいいタイミングですので、来年度以降のプロモーション、例えば観光誘客に使えるようなロゴマークとか、キャッチコピーとか、紫式部公園の修景をきれいにするとかも含めて、補正予算を準備しました。さらに来年度以降プロモーションの予算、更には、大河ドラマのゆかりの地では、大河ドラマ館などをやっていますので、そこをどうやって展開するのかしっかり検討しながら進めていきたいと思っています。

いろいろな活動団体があり、源氏物語アカデミーであるとか、紫式部源氏物語に関連する人達、一所懸命に活動しておられる方々と連携する必要があります。紫式部源氏物語だけではなくて、むしろ平安の絵画であったり仏像であったり歴史的な史観であったり、国府そのものであったり、そういったものを含めて、紫式部を生かしていきたいと思っています。

このほか、来年度から子ども医療費500円を廃止にするための準備の予算や政府も進めているマイナンバーカードの普及について、市民の皆さんの利便性を高めるようなことを考えており、今回予算を計上しています。

マイナンバーカードの関連では、コンビニでマイナンバーカードを使って住民票の写しの交付を受けるときに通常300円を150円半額にし、コンビニ交付の値段を下げることによって、普及促進を図るというものです。

予算に関しては、以上です。

次に、昨日の全員説明会でも説明しましたパートナーシップについて、お手元に資料を配布していますので、簡単に説明申し上げます。越前市においてパートナーシップ宣誓制度を10月1日から導入するよう進めたいと思っています。制度としては、パートナーシップ宣誓制度実施要綱を作って運用をする考えです。要件はいろいろありますが、制度導入により受けられるサービスとして、市営住宅、税金の証明、罹災証明書、あとはちよっとレアケースかもしれませんが犯罪被害者遺族見舞金です。さらに民間事業

者のご協力をいただいたうえで、生命保険の保険金受取人、クレジットカードの家族カード、携帯電話の家族割引、自動車保険の家族限定特約で配偶者として補償など、この宣誓制度が使えるようにしていこうと思います。

2 越前モノづくりフェスタ2022

資料3

商工会議所藤木事務局長から資料3に基づき概要説明。

3 質疑要旨

令和4年度9月補正予算（案）の概要

【質問】紫式部プロジェクト事業について、ロゴマークやキャッチコピーを制作することだが、今の考えでは、どのように活用していくのでしょうか。

【回答】基本的に紫式部を全面的に打ち出そうとすると、紫式部がばらばらな字体だと統一感がないということになります。従いまして、例えば、包装であったり、お持ち帰りの際の袋であったり、そういったものに統一のデザインを印刷して、福井県の越前市であるとか紫式部に関係するところに行って来たと分かるように、アピールできるデザイン、ロゴを制作することを考えています。また、活用の仕方では、それ以外でもパンフレット等にも統一したデザインにすることによって、全体での盛り上がりにも寄与していく考えです。

【質問】本格的は来年度からの話とは思いますが、24年の放送に向けて今はどういった時期と捉えているのでしょうか。

【回答】実際に大河ドラマが放送されるのは、2024年、令和6年1月からです。現在、令和4年度で1年半ほどあります。まずプロモーション活動をしっかりやっていきたいと思っています。そして実際に大河ドラマが始まった頃に、観光客としてたくさんお越しいただきたいと考えており、そういった方をしっかり受け入れるための準備、これに取り掛かるのが、これから1年半の期間と考えています。今回、9月補正で計上した予算は、来年度実際に進めていく

ために、しっかり今のうちから準備するもの、例えば、キャラクター、ロゴマーク、キャッチコピー、そういったものをしっかり作り込みしていく中で、来年度プロモーション活動を速やかに年度当初からスタートできる状態を作っておきたいと思い、9月補正予算に計上しました。あと、紫式部公園の庭園の一部を予算計上しています。ここにはたくさんの木を植えています。木の剪定時期を考えて9月補正予算で500万を追加で計上し、当初予算の500万と併せて令和4年度において1千万円を掛けまして、樹木の剪定等を中心に行っていきたいと考えています。

少し準備に時間が掛るものを早くするというのが1点と、もう一つは、市役所、あるいは市民、県民の皆さんに改めて紫式部とこの地の関わり、ゆかりというものを認知して、機運を盛り上げていかないと外に向かって発信できないし、来ていただいたときにも十分なおもてなしとか、アピールができないということになりますので、早急に着手したいと思います。

越前モノづくりフェスタ2022

質問なし

その他

【質問】 パートナーシップ制度について、越前市が県内で初めてとなった背景、どんな地域性なり、どんな風に受け入れていったのでしょうか。

【回答】 越前市の場合は、市役所の中や、あるいは当事者の方々の団体の活動においても、意識、精神的な基盤も活動の基盤もできているということが一番最初にできる状況になった要因だと思います。私自身は、LGBT等を含め少数者、マイノリティの人権も大切にすべきと思いますし、人はどこかの面で必ずマイノリティであると思いますので、全ての人々が尊重される社会を作っていく必要があると思います。LGBTのパートナーシップ宣誓制度の導入によって、越前市に居住されている方も、あるいは市外の方々もそういったことについて更に関心を高めて、住みよい社会になっ

ていくことが必要だと思います。

【質問】 制度導入によってどんな地域づくりに繋げていくのでしょうか。

【回答】 今、ウィルビーイングというのを総合計画で言っている。これは、全ての人があらゆる世代が何処に住んでいてもどういう境遇であってもみんな幸せに、生涯、人生100年と言われる時代に過ごしていけるという住みよいふるさとだと思います。越前市も是非そういうふるさとにしたいと思います。その上では、マイノリティの方が不安を持ったり引け目を感じたりすることがない、生き生きと自分の居場所があって活躍できる舞台があるというふうなことをやっていく必要があると思います。

【質問】 他の市町、県全体への広がっていくことへの期待や情勢など、その当たりの考えはどうでしょうか。

【回答】 行政区域という市や町の境、県の境は、行政のために便宜的に定められた線であって、実際の生活圏域は、市境を越え県域を越え国境を越えるわけです。そういう意味では、越前市からスタートして越前市に住んで、例えば福井市に勤めに行くとかその逆もあると思いますが、どこに住んでいてもそういう環境があるというのがより望ましいと私は思います。そのために準備ができている越前市からそれを成功することによって、この地域、この周辺地域の人達が、こういう生活ができるようにしていくということは期待できるのではないかと思います。首長さん方もそういうことに関心を持っておられると感じています。

【質問】 受けられるサービスは、今のところ4項目ですが、今後、今までの導入自治体と比べてどのような位置づけで、今後どのようにされていくのでしょうか。

【回答】 ここに記載されている行政の4項目については、今年関係課で構成する検討委員会の中で諮り、決定したものであります。今後、サービスの拡充も考えているため、記載の4項目は、現段階でのサービスと考えていただければよろしいかと思います。

【質問】 他市町はどのような実績で、それと比べて選ばれていると思うが、先行事例と比べて進んでいるのか同程度なのでしょうか。

【回答】 例えば、隣の石川県では、金沢市や白山市が制度を導入していま

す。金沢市も白山市も、市営住宅への入居、市立病院の入院や手術の同意、市職員の慶弔規定でパートナーの忌引等の休暇制度、消防団員の配偶者等への表彰制度の4件を対象サービスとして挙げています。越前市も他市の状況も参考にさせていただきながらサービス増やしていきたいと考えています。

【質問】 税証明とか罹災証明とか見舞金は、独自のものでしょうか。

【回答】 全国では、200を超える自治体が制度を導入していますので、税証明や罹災証明、犯罪被害者の見舞金についても導入している自治体はあります。